

令和6年度自己点検・評価報告書

八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部自己点検評価委員会(令和7年5月9日)

自己点検・評価の視点	自己判定	事実の説明および自己評価	将来計画
学内からの視点			
プログラムの履修・修得状況	満たしている	プログラムは1年次開講必修科目で構成されており、履修・修得状況は、地域経営学部が履修者76人、単位修得者73人(96%)、健康医療学部が履修者130人、単位修得者122人(94%)、全体で履修者206人、単位修得者195人(95%)であった。	プログラム開設初年次であり、データサイエンス入門も令和6年度開始科目であるため、年度による修得率の比較はできないが、今後は1年次の修得率で比較を行う。また、プログラムを構成する科目は卒業必修科目でもあるため、不合格の学生には、再履修の指導を行う。
学修成果	満たしている	令和6年度の授業アンケートにおいて、「学びや成長につながる授業でしたか?」という質問に対し、4段階評価で「ややそう思う」および「そう思う」との肯定的な回答は、「情報処理基礎」で97%、「データサイエンス入門」で93%を占め、一定の評価を得ていることが確認できた。	卒業年次には学修成果の可視化を目的として、卒業時アンケートを実施しており、本プログラムを履修した学生が卒業する年度には、データサイエンス・AIに関するアンケート項目を追加し、評価・分析を行う予定である。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	満たしている	「データサイエンス入門」では、毎回の授業で学修支援システムのアンケート機能を活用し、「本日の授業について理解できたこと、できなかったこと、授業のポイント」などを学生に記述してもらうことで、一人ひとりの理解度を把握することができた。	授業アンケートでは、スライドや資料の分かりやすさ、質問や相談のしやすさなど、授業環境に関するデータも収集しており、これらを授業改善に活用することで、学生の理解度の向上を図る。

自己点検・評価の視点	自己判定	事実の説明および自己評価	将来計画
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	満たしている	本プログラムを構成する2科目はいずれも卒業必修科目であるため、すべての学生が本プログラムを履修する。	今後は、学生とのカリキュラムに関する意見交換会において、後輩への推奨の可否や、本プログラムの良かった点、工夫したほうが良い点について意見を伺い、学生自身が本プログラムの目的を理解し、後輩にも積極的に勧められるような仕組みづくりを検討する。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	満たしている	必修科目で構成されているため、履修率は計画通り向上する。1年次での修得率に着目して実施していきたい。	1年次での修得率に着目して進捗状況を確認する。

自己点検・評価の視点	自己判定	事実の説明および自己評価	将来計画
学外からの視点			
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	—	本プログラムは令和6年度から開始したため、令和6年度については修了者の進路・活躍状況等の確認は実施していない。	卒業生に対する就職先企業からの評価を把握するため、就職先企業へのアンケートを毎年度実施している。今後、本プログラムの修了者を対象としたアンケートを実施する際には、データサイエンスやAIに関する調査項目を追加し、卒業生の活躍状況などについての把握を行う予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	満たしている	本学では、第三者の立場から教育・研究水準の向上に資する提言を得ることを目的として、産学官の委員で構成される外部評価を実施している。本教育プログラムについては、令和5年度に実施計画を報告し、デジタル人材の育成に関する要望が寄せられた。	ビジネスの視点から生成AIを実践的に学ぶ講座の開設についても提案があった。これらの意見で可能なものについてはプログラムに反映させる。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	満たしている	「データサイエンス入門」では、学生の興味・関心を引き出すため、AI活用に関する事例を各学科の将来の職業イメージに沿って紹介している。また、実データを用いたデータ分析の授業では、八戸市との連携協定に基づき、市が実施した「公共施設の有効利用に関する市民アンケート結果」のデータ提供を受け、学生が身近な社会課題に対して問題意識を持ちつつ、データを分析・評価することで、学ぶことの意義を実感できるようにしている。	八戸市との連携協定に基づき、引き続き授業でデータを活用するとともに学生が学ぶ楽しさ、学ぶことの意義を理解する授業を行う。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	満たしている	令和6年度の授業アンケートでは、スライドや資料の分かりやすさについて、4段階評価で「ややそう思う」および「そう思う」との肯定的な回答は、「情報処理基礎」で94%、「データサイエンス入門」で95%を占め、一定の評価を得ていることが確認できた。また、「データサイエンス入門」で説明した内容を、「情報処理基礎」の演習課題として扱うことで、説明だけでは理解しづらい内容も、実習を通じて理解を深めることができるようにしており、授業アンケートの自由記述では、「話を聞くだけでなく、実践的にデータ集計などの作成を行えたことで身についた。」といったコメントが複数あった。	授業アンケートの自由記述では、工夫してほしい点として「進むのがはやい」といったコメントも複数あった。知識やスキルの個人差もあるため、授業だけでなく、予習・復習も含めて学修支援を行っていく。